

平成 29 年 12 月 19 日 (火曜日)

九州北部豪雨

## 足立議員が被災地訪問

### 迅速な予算執行要望



古賀元議員(左)と足立議員(左から3番目)

元衆院議員・元自民党幹事長  
足立敏之参院議員と古賀誠

らは16日、2017年九州北部豪雨で被災した福岡県朝倉市と東峰村を訪問した。大量の土砂と流木による被害から5カ月が経過した赤谷川流域など4カ所を視察したほか、福岡県土木組合連合会朝倉支部ら地元建設企業や朝倉市と意見交換した。

今回の訪問は、災害発生直後に訪れた前回視察後の進捗状況の検証を目的に、足立議員のほか九州地方整備局の増

田博行局長と藤巻浩之企画部長、水資源機構筑後川局の元永秀局長、福岡県の山本巧県土整備部長などの行政関係者が参加した。

地元の建設企業との意見交換では、福岡県土木組合連合会朝倉支部の平田立身支部長が会員企業による復旧作業の取り組み状況を説明し、復旧

工事への地元企業の参加や速やかな予算執行を要望した。古賀氏は「災害で最初に頼り

になるのは地元企業であり、皆さんがいないと復旧は進まない。皆さんを守ることが、日本の生命・財産を守る上でいかに大事なのか肝に命じた

い」とした。増田局長は、「復旧対策予算をしっかりと確保して、現地でスムーズに進めることができるように頑張りたい」と語った。この後、国による権限代行で応急復旧が進められている赤谷川と東峰村の県道52号周辺、小石原川ダム、寺内ダムで説明を受けた。

視察を終えた足立議員は、「当時はどこに川があるのかわからない状況だったが、川の形ができて少しずつ復旧が進んでおり、市町村と県、国の連携の力を感じた。この地域の復興を達成するためにわれわれも全力で頑張りたい」と述べた。